

イーグルクランプ通信

営業所紹介 第7回 小倉営業所の巻



九州の玄関口、福岡県北九州市の中心に位置する小倉営業所は、全九州（長崎県、佐賀県西部を除く）と山口県西部を担当エリアに持ち、広範囲にわたって日々営業活動にまい進しております。

スタッフは、取締役西部ブロック長の若狭をはじめとし、所長の小舟（気持ちは大船）、中堅の楠本（遅咲き新婚）、若手の仁井（イケメン?）、営業事務の江口（ベテラン?）の5名体制です。

ユーザー様登録件数は約3800件を数え、鉄鋼・造船・橋梁・プラント・建設・土木とあらゆる業界でご使用いただいております。これからも、アフターサービス（巡回点検）をメインに、皆様から信頼される吊り具専門メーカーを目指し頑張っていきます。



小倉城



写真左から 小舟、江口、若狭、楠本、仁井



実物大のスペースシャトル(模型)で有名なスペースワールド

CONTENTS

- ・鉄のおはなし
- ・世界の偉人伝
トーマス・アルバ・エジソン
- ・営業所紹介
第7回 小倉営業所の巻
- ・表紙のクランプ
敷鉄板吊フック
JDH型

表紙のクランプ

JDH型 敷鉄板吊フック

敷鉄板の敷設に最適。

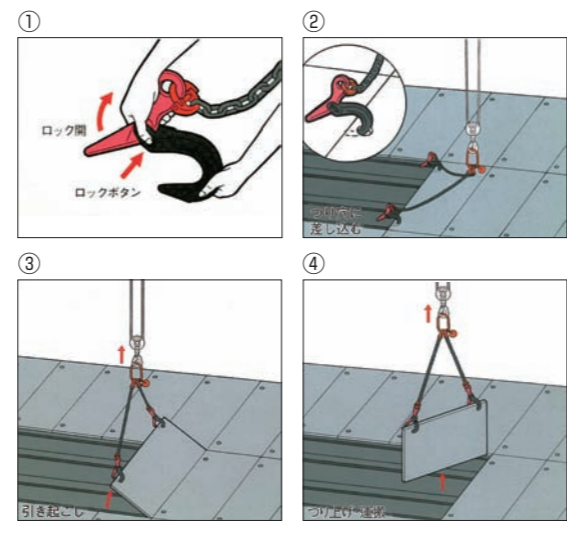
開口部が大きく、敷鉄板はもとよりアイデア次第でいろいろな用途に使えます。

つり上げると自動的に開口部が閉じてロックされるオートロック機構で、安全に作業が行なえます。



型式	開口寸法 (mm)	基本使用荷重 (t)	自重 (kg)
JDH-1	70	1	2.4
JDH-2	80	2	3.4
JDH-3	80	3	4.2

<操作方法>



イーグルクランプ株式会社

本社 〒542-0012 大阪市中央区谷町8丁目2-3
TEL(06)6762-0341 FAX(06)6768-5718
E-mail: (本社) eagle@eagleclamp.co.jp
東京支店 〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川2丁目2-2
TEL(045)491-5355 FAX(045)491-9633
札幌営業所 〒003-0837 札幌市白石区北郷7条7丁目1-10
TEL(011)873-6053 FAX(011)873-6306
仙台営業所 〒983-0014 仙台市宮城野区高砂1丁目27-3
TEL(022)254-5161 FAX(022)254-5163
北関東営業所 〒373-0806 群馬県太田市龍舞町5342
TEL(0276)46-7331 FAX(0276)46-7004
千葉営業所 〒290-0056 千葉県市原市五井1205-1
TEL(0436)23-4811 FAX(0436)23-4812
名古屋営業所 〒456-0062 名古屋市中村区横前町551-4-1
TEL(052)419-1301 FAX(052)419-1302
大阪営業所 〒542-0012 大阪市中央区谷町8丁目2-3
TEL(06)6762-2081 FAX(06)6768-8275
北陸営業所 〒921-8011 金沢市入江3丁目132
TEL(076)291-2026 FAX(076)291-2027
岡山営業所 〒700-0986 岡山市北区新屋敷町3丁目5-21
TEL(086)246-1451 FAX(086)245-8951
広島営業所 〒733-0863 広島市西区草津南3丁目7-9
TEL(082)279-6600 FAX(082)501-2566
小倉営業所 〒802-0064 北九州市小倉北区片野3丁目4-14
TEL(093)921-1286 FAX(093)922-4379
長崎営業所 〒851-1132 長崎市小江原4丁目2-5
TEL(095)844-9875 FAX(095)846-2251
工場 〒630-0142 奈良県生駒市北田原町1570
TEL(0743)78-0571 FAX(0743)78-1639
技術部 〒630-0142 奈良県生駒市北田原町1570
TEL(0743)78-0571 FAX(0743)78-0572

ユーザー新規登録/確認/定期点検についてのお問い合わせは
フリーダイヤル 0120-119-080
ホームページ <http://www.eagleclamp.co.jp>



敷鉄板吊フック
JDH型

第9号

World wide lifting equipment
EAGLE CLAMP CO.,LTD.

ISO-9001
A.C.NO.YKA 0200132
Design, Manufacture, Maintenance, Management.

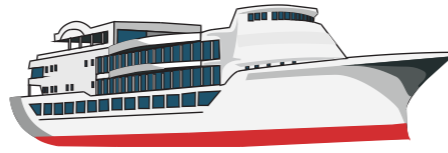


鉄のおはなし

私たちの周りにはいたるところで鉄が使われています。例えば車のボディーも冷蔵庫や洗濯機も鉄で出来ていますし、ビルの骨組みは鉄骨や鉄筋で出来ています。また、海外から石油を運んでくるタンカーや旅客船もほぼ鉄で出来ています。

こんなに身近な鉄について皆さんはどんな印象を持っていますか？

例えば、金や銀やプラチナやチタンは金属の中でも高級で、値段も高く重要な部品等に使われるけど、それに比べて鉄は、さびるし、重いし、あまり重要な用途には使われない金属だと思いませんか？



しかし、実は鉄ほど優れた金属は他にはありません。今回はそんな鉄に関するお話です。鉄は人類にとって最も付き合いの長い金属です。ちなみにほぼ同じ時期に人類は青銅（銅とすずの合金）も使い始めました。ただ、当初の鉄は製鉄の技術が確立されていなかった為、不純物が多く、強度の点では青銅の方が優れていました。18世紀の後半から製鉄の技術も進み、青銅に替わって多く使われるようになったそうです。

ところで、皆さんは「鉄」を英語でなんと言いますか？「IRON（アイアン）」ですよね？でも、通常何かの製品を鉄製と言う場合「アイアン製」とは言わず「STEEL（スチール）製」と言う場合が多いと思います。では、「IRON（アイアン）」と「STEEL（スチール）」はどう違うのでしょうか？

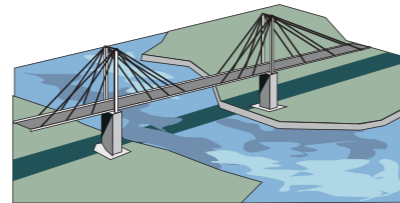
まず、私達の身の回りには、純粋な鉄、というのはほとんど目にする事ができません。身の回りには鉄は、微量に炭素を含む「合金」です。この炭素の含有量によって、鉄の特性は大きく変わってきます。ほとんどの場合、鉄はそのままではもろくて使いものになりません。そこで、熱したり冷やしたり、炭素の量を調整したりして鉄を鍛え、いろいろな用途に使えるようにします。この鍛えた鉄を「鋼鉄」または単に「鋼」つまり「STEEL（スチール）」と呼ぶのです。

鋼鉄は鉄と炭素の合金と言いましたが、炭素以外の物質を混ぜることでさらに種類が増えます。有名なところでは、食器や流し台・水道の蛇口などに使われる**ステンレス鋼**。また、自動車の外板や大型船の船体などに使われる**高張力鋼**、などが挙げられます。

ステンレス鋼はその名の通り「錆びない」鋼鉄です。ステンレスは、鉄とニッケルの合金で、他に炭素もわずかに含んでいます。ステンレスが錆びないのは、表面に非常に薄い膜が自然にできるからなのですが、実はこの膜自体がものすごく薄い錆なので、ステンレスの表面を薄くしかし強固にカバーし、地金に酸素が接触するのを阻止するので、全体として錆びないというわけです。また、たとえ傷がついて地金が露出しても、また自然に膜が作られるため、ちょっとやさっとでは錆びません。まさに「錆をもって錆を制す」というわけです。

高張力鋼は鉄鋼の中の炭素量を少なくして、マンガン、シリコン、ニッケル、クロム、モリブデン、バナジウム、チタンなどいろいろな元素を添加して作られた鋼で、普通の鋼より硬いことが特徴です。これを、例えば自動車に使えば鉄板を薄くできるので、軽量化でき燃費が良くなります。橋梁に使えば自重が軽くなりより強い橋が作れます。そして、この高張力鋼を安定して供給できるのはほぼ日本の鉄鋼メーカーだけです。

高張力鋼は硬い代わりに、加工が難しい材料です。針金や鉄板を曲げると、曲げた分から少し戻った状態で形が落ち着きますが、高張力鋼はこの戻りが大きいので、曲げるときの型も、その戻り分を計算に入れて作らなければなりません。そういった高張力鋼の性質を知り尽くしているのが日本の鉄鋼メーカーなのです。



どうですか、一言に「鉄」と言っても意外と奥が深いでしょう。鉄橋や船など鉄で出来たものを見たら、ぜひこの話を思い出して見て下さい。



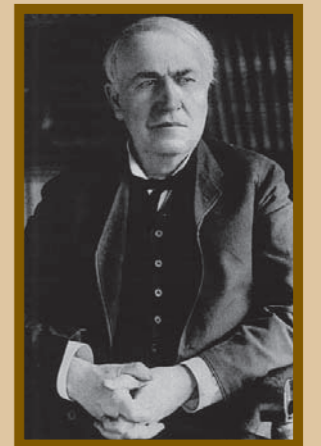
こんにちは！ Dr. イーグルです。今回からは趣向を変えて、世界の偉人をご紹介します。第1回目は生涯で1,300以上の発明を行ったアメリカ合衆国の発明家エジソンです。

Dr. イーグル

世界偉人伝

トーマス・アルバ・エジソン (Thomas Alva Edison)

エジソンは1847年2月11日にオハイオ州に生まれました。幼少期の後、小学校に入学するも、好奇心旺盛なエジソン少年は「1個の粘土と1個の粘土を合わせたら、大きな1個の粘土なのになぜ2個なの？」「A（エー）はどうしてP（ピー）と呼ばないの？」授業中には事あるごとに「なぜ？」を連発していたといひます。また、「なぜ物は燃えるのか」を知りたいと思い立ち、自宅の納屋で藁を燃やしていたところ、全焼させてしまったこともあったそうです。エジソンは、自分が納得できるまで「わかった」とは決して言いませんでした。そのため、先生からも頭が悪い子だと言われ、入学からわずか3ヶ月で退学を勧められたそうです。



学校へ行かなくなったエジソンでしたが、基本的な勉強は教育熱心で小学校の教師でもあった母親に教わります。母親はエジソンに家の地下室に様々な化学薬品を揃え、エジソン自身もその地下室で科学実験に没頭していました。そして12歳の時、鉄道会社と契約し、汽車の中の1室を借りて、世界初の鉄道車内新聞を発行しはじめました。

15歳の時、エジソンは偶然、線路に落下した子供を助きました。助けた子のお父さんは鉄道会社の電信技師で、感謝感激してエジソンと話をするうちに、彼はこの奇妙な少年をすっかり気に入って、エジソンに当時最先端の電信の技術を教え込むのです。

電信の技術を覚えたエジソンは、アメリカやカナダの各地で電信技師の仕事をし、21歳の時ニューヨークにたどりついて、電信会社で月300ドルの仕事をもって暮らしながら、いろいろな発明をしました。翌年、株価表示機の特許を取得し、これが4万ドルで売れて、彼はプロの発明家としての第一歩を踏み出します。その後も電話機、蓄音機、発電機、電気鉄道、鉱石分離装置、電灯照明などを矢継ぎ早に商品化します。なかでも注力したのは白熱電球でした。

31歳の時、1878年10月15日に白熱電球の売り込みのために「エジソン電灯会社」を設立したのを皮切りに、いくつもの会社を設立し、これらの企業群はのち1889年に合併して「エジソン・ゼネラル・エレクトリック」となり、これが1892年にトムソン・ハウストンと合併し、現在の世界最大の複合企業であり、売上高世界第二位のメーカーのゼネラル・エレクトリック（GE）となって現在に至っています。

エジソン自身1892年以降は会社経営からは身を引き、研究所で発明に没頭しました。1914年67歳の時、そのエジソンを不幸が襲います。研究所が火事になって、試作品や書類など膨大な資料が焼けてしまったのです。しかし彼はめげませんでした。「これで無駄な物はすっかりなくなった。これからまた新たな気持ちで新たな研究を始められる。」と平然と言ったのけたそうです。その後も合成ゴムの研究など精力的な活動を続け、その発明研究は1931年10月18日に84歳でなくなるまで続けました。

「天才とは1%のひらめきと99%の汗である」
エジソンの残した言葉です。